

天平勝宝七歳乙未の二月に、相替りて筑紫

に遣はさるる諸国の防人等が歌

四三二二番

恐かしこきや 命みこと被かり 明あす日ひゆりや 草かえがむた寝ねむ  
妹いむなしにして

四三二二番

我わが妻つまは いたく恋こひらし 飲のむ水みづに 影かこさへ見み  
えて よに忘わすられず

四三二二番

時とき々の 花はなは咲さけども 何なにすれそ 母ははとふ花はなの  
咲さき出で来こずけむ